

手話通訳・要約筆記をご利用になるときの会場レイアウトについて

配置についての基本的な考えかた

手話通訳や要約筆記は、話す人（講演者・司会者など）や、パワーポイントのスクリーンの近くに配置すると、見る人の負担を軽くすることができます。



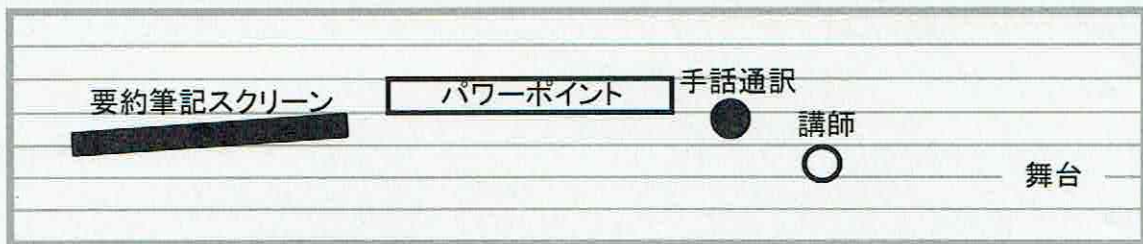
◆ レイアウトの例

よくある配置の例を示しています。状況により上手と下手のレイアウトを逆にしたり、講師と手話通訳の立ち位置を入れ替えることもあります。

① 手話通訳を講師の隣に配置・要約筆記スクリーンを舞台前方の端に置いた例

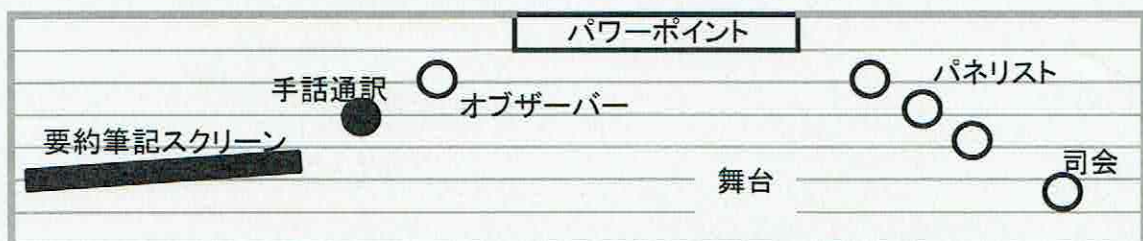


② 講師用のスクリーンと、要約筆記のスクリーンを隣に並べた例



③ 話者がたくさんいる場合

対象者の座席を、一目で全体を見渡せる席に調整することで対応できます。



会場の規模や設備の都合で、必ずしも上記のように配置できない場合もあります。現場で調整が必要になった場合には、通訳者にご相談くださいますよう、お願いいたします。